

Innovator in Electronics として

株式会社村田製作所
証券コード (6981)

2024年3月12日
財務戦略部 IR課
辰巳 一樹



- 01 : ムラタについて
- 02 : ムラタの価値創造ストーリー
- 03 : 株主還元
- 04 : ご参考
 - 2023年度 第3四半期決算

01



ムラタについて



文化の発展に貢献する

世界的な総合電子部品メーカー

セラミックスをベースとした電子部品を展開



コンデンサ



インダクタ



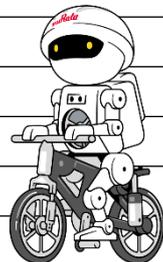
高周波モジュール



センサ

会社概要

会社名	株式会社村田製作所
証券コード	6981
創業	1944年10月
資本金	69,444百万円
所在地	京都府長岡京市東神足1丁目10番1号
発行済み株式数	2,027,442,843株 (2023年10月1日時点)
株主数	128,934名 (2023年9月30日時点)



muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

代表取締役社長

中島 規巨
(なかじま のりお)

数字で見るムラタ ※2023年3月末時点

売上高



1兆6,868億円

営業利益率



17.7%

海外売上高比率



90%以上

従業員数(連結)



73,164名

研究開発費



1,242億円

拠点数



88拠点

社 是

技術を練磨し
科学的管理を実践し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をはかり
これをよろこび
感謝する人びとと
ともに運営する



創業者 村田昭

社是の実践を通じて培ってきた
ムラタの人的資本における強み

グローバルでの経営理念の浸透

社是に共感し、真摯に実践する従業員

CSとESを大切にする価値観

多様な個を活かし、連携する組織風土

イノベーション（革新）を

起こし続けることを大切にする社風

ムラタが大切にしている価値観

“CSとESの追求”

CS

お客様が認めてくださる
価値を創造し、提供する

ES

仕事を通じて
従業員一人ひとりが
やりがいを感じ成長し続ける

コンピタンス1 先を読む力



高い技術力・高シェアの製品を提供し続け、お客様とのコミュニケーションを通じて **ニーズを先読み**し、市場・技術動向を予測

コンピタンス2 ニーズをカタチにする力

良い電子機器は良い電子部品から、
良い電子部品は良い材料から

■ 垂直統合型の一貫生産体制

原料から製品までの一貫生産体制を構築

メリット

- 技術・ノウハウのブラックボックス化による競争力強化
- 内製化によるコスト削減
- 高い供給力

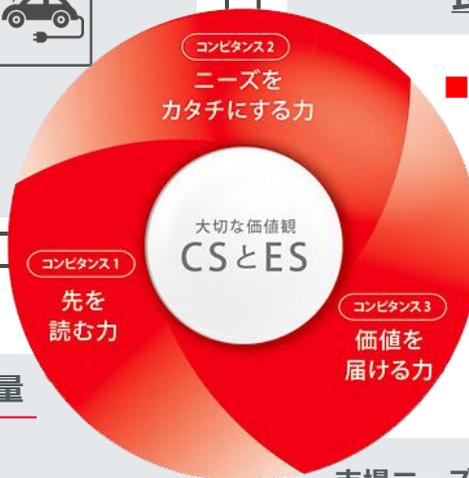
コンピタンス3 価値を届ける力

積層セラミックコンデンサの年間生産量



1兆個以上

中長期の市場成長率を**年率10%程度**と考え、需要の成長に応じた生産能力の増強を実行



市場ニーズ：電子機器の小型化
→ 部品の小型化が必要に

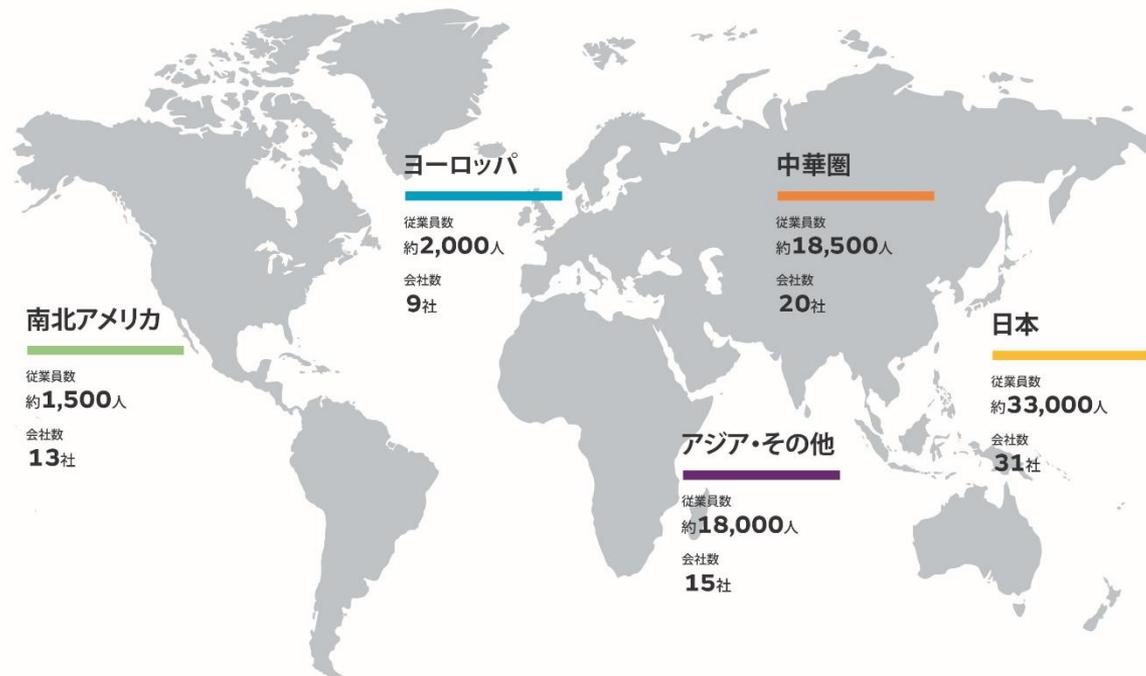
◆ 軽薄短小技術

世界最小の製品を製造できる技術力



グローバルでの販売・サポート体制を構築

会社数	従業員数	海外売上高比率	日本国内生産比率
88 社	73,164 人	90 %以上	約 65 %



セグメント別売上構成比

デバイス・モジュール

7,610億円

機能デバイス

センサ、タイミングデバイス（発振子）など

928億円

エネルギー・パワー

リチウムイオン二次電池、電源モジュール

2,146億円

高周波・通信

コネクティビティモジュール、
高周波モジュール、表面波フィルタ、
樹脂多層基板など

4,536億円

その他

ソリューションビジネス、
ヘルスケア機器、機器製作など

117億円

コンポーネント

9,142億円

コンデンサ

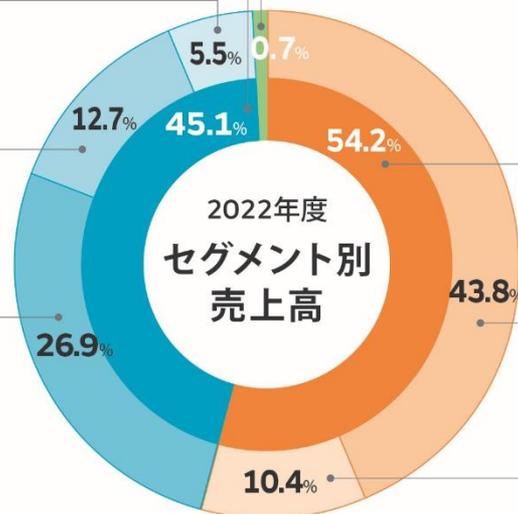
積層セラミックコンデンサなど

7,388億円

インダクタ・EMIフィルタ

インダクタ、EMI除去フィルタ

1,753億円



チップ積層
セラミックコンデンサ
世界シェア率

40%



EMI 除去フィルタ
(EMIFIL®)
世界シェア率

40%



表面波フィルタ
世界シェア率

50%



多層 LC フィルタ
(フィルタ、バラン、カプラなど)
世界シェア率

40%



マイクロ 배터리
「酸化銀電池」
世界シェア率

40%



ショックセンサ
世界シェア率

95%



セラミック発振子
世界シェア率

95%



高周波インダクタ
世界シェア率

60%



積層セラミックコンデンサ



特徴

電子回路の基本となる部品

- ・電気の蓄積と放出
- ・ノイズの吸収

市場

ほぼすべての電子機器



売上高

7,388億円



売上構成比
43.8%

※2022年度実績

強み

- ・豊富な製品ラインアップ,高いシェア
- ・小型大容量,高信頼性,高品質を実現する技術力
- ・ワールドワイドな販売体制と業界最大の供給力
- ・材料から製品までの一貫生産体制にもとづく収益力

成長戦略

- ・部品需要拡大に対応するための生産能力の増強
- ・競合企業の台頭などのリスクを踏まえた、成長シナリオの立案と実行
- ・持続可能なイノベーションの創出とグローバル販売ネットワークにより、トップシェアであり続ける

インダクタ



特徴

電子回路の基本となる部品

- ・ 電圧の変換
- ・ 電流の安定

市場

ほぼすべての電子機器



売上高

1,753億円



売上構成比
10.4%

※2022年度実績

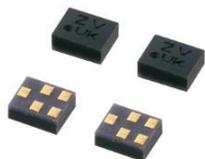
強み

- ・ 豊富な製品ラインアップ,高いシェア
- ・ さまざまな工法を使った最適な製品設計
- ・ 高品質と顧客サポート力,それを支える評価・解析技術
- ・ 旺盛な需要に応える高い供給力

成長戦略

- ・ 市場の変化を捉えた新たな顧客価値の提供
- ・ 開発力と基盤技術の融合による市場要求に応えた製品の提供
- ・ お客様へのグローバルサポート体制の拡充

表面波フィルタ



特徴

スムーズな通信に必要な部品

- ・ 特定の周波数帯の電気信号を取り出す

市場

スマートフォンや通信機器



売上高

4,536億円



売上構成比
26.9%

※2022年度実績

強み

- ・ 豊富な製品ラインアップ、高いシェア、安定した品質
- ・ これらの通信市場で求められる優れた特性（高周波・広帯域・高減衰・低挿入損失・小型化）
- ・ 業界最大の生産能力と安定した供給力

成長戦略

- ・ 高付加価値品での差異化とコスト競争力の強化による収益機会の確保
- ・ XBAR技術を用いたフィルタの量産化
- ・ 5Gで拡大する通信市場でムラタの強みを活かした新たな用途お客様の探索

樹脂多層基板



特徴

電子機器の小型化・薄型化の キーとなる部品

- ・回路基板内を3次元に配線できる基板

市場

スマートフォンなど



売上高

4,536億円



売上構成比
26.9%

※2022年度実績

強み

- ・高周波帯における低伝送損失性能での優位性
- ・高多層、低吸水性、複雑な曲げ加工ができる屈曲性
- ・LCP（液晶ポリマー）の豊富な量産実績

成長戦略

- ・新規事業領域および新規顧客への拡販活動推進
- ・差異化技術のさらなる強化
- ・スマートファクトリー化の推進やコストダウン技術の開発による生産性向上

リチウムイオン二次電池



特徴

電子機器に 電力を供給する電池

- ・長寿命で安全性が高く
高出力な機能をもつ

市場

家電・産業機器



売上高

2,146億円



売上構成比
12.7%

※2022年度実績

強み

- ・高い品質をともなった高出力技術
- ・耐衝撃・小型化を実現させるパッケージ技術

成長戦略

- ・差別化技術のさらなる強化
- ・ムラタの環境貢献事業としての事業基盤を確立
- ・タイムリーな投資とモノづくりの強化による
強固な事業基盤を構築

センサ



特徴

**IoTや自動運転の
実現に欠かせない部品**

- ・外界の情報を測定し、
扱いやすいデータに変換

市場

通信機器や自動車など



売上高

928億円



売上構成比
5.5%

※2022年度実績

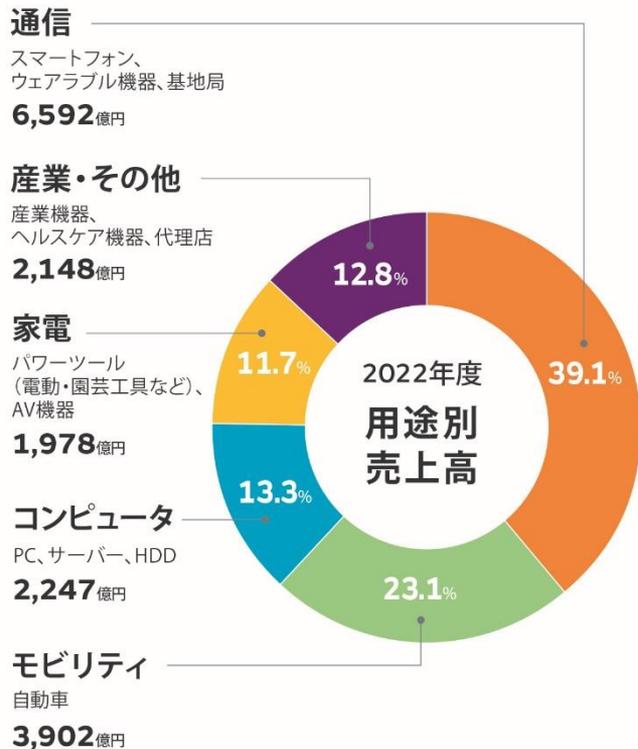
強み

- ・独自のMEMS設計・加工・パッケージング技術による
低ノイズ・高感度・高精度・安定性・信頼性
- ・豊富なセンサ技術の引き出しと多彩な製品ラインアップ
- ・さまざまな材料を用いることによって差異化した
素子を有し、お客様に価値を創造・提案できること

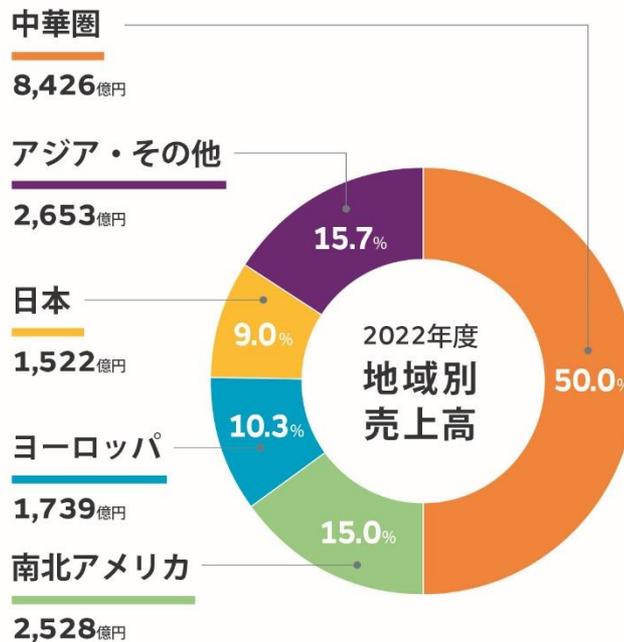
成長戦略

- ・コア技術の創出と強みを活かすアプリケーションに
リソースを投下
- ・技術の差異化を図り、パートナーとともに新しい価値
を創出
- ・製品価値を最大化するSCMの構築

用途別売上構成比



地域別売上構成比



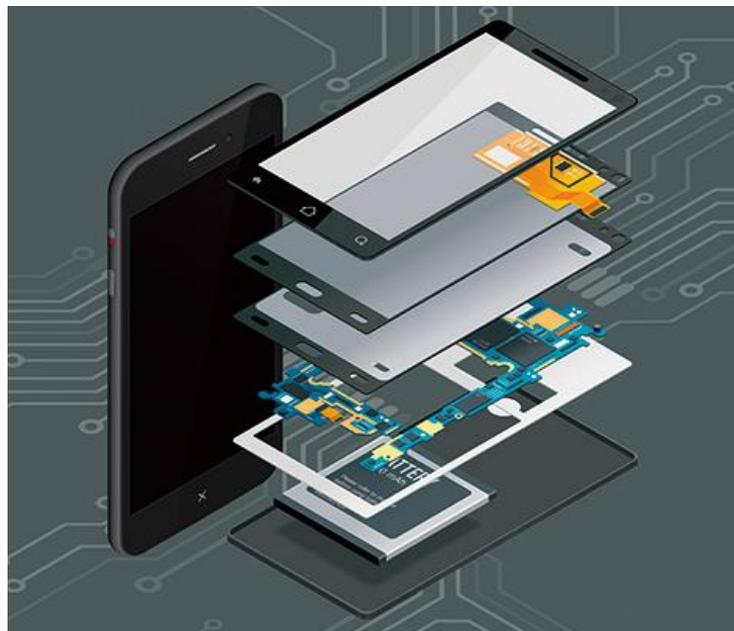


技術の進歩とともに部品の搭載数も増加

(単位:個)

製品名	スマートフォン 	ノートPC 	タブレットPC 	自動車 	デジタルTV 	スマートウォッチ 
積層セラミック コンデンサ(MLCC)	1,000	800	600	5,000-8,000	600	350
EMI除去フィルタ(EMIFIL®)	60	60	90	270-400	50	30
インダクタ(コイル)	300	30-50	200	400-500	30	30-50
表面波フィルタ	4-70	—	4-70	0-30	—	0-30
多層LCフィルタ (フィルタ・カプラ・バランなど)	2-20	2-4	2-20	2-8	2	3-6

【市場トレンド】スマートフォンの高機能化・小型化



社会価値

高機能・高信頼・高品質な
製品の安定供給による



エレクトロニクス産業
の安定化

通信システムの進化や
アプリケーションの発展

コンポーネント

コンデンサ



インダクタ



EMIフィルタ

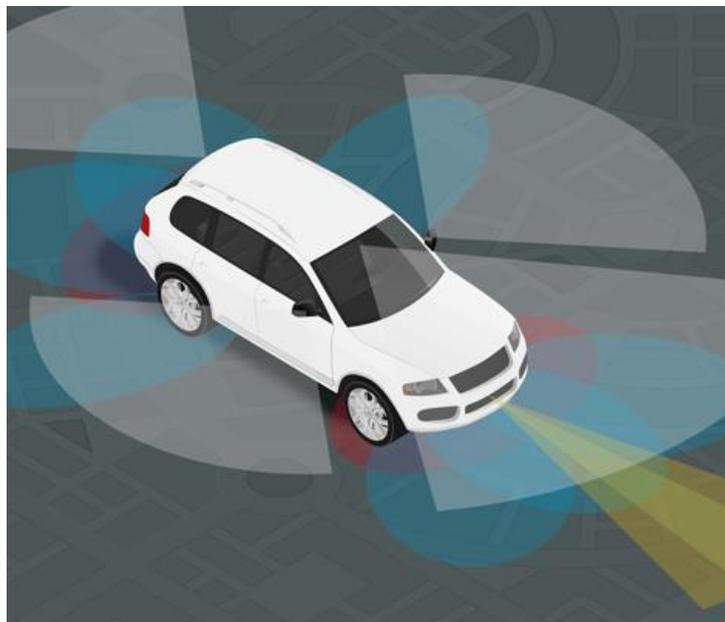


デバイス・モジュール

-  高周波モジュール
-  表面波フィルタ
-  タイミングデバイス
-  サーミスタ
-  樹脂多層基板
-  コネクタ
-  ミリ波アンテナモジュール

高シェアを誇る製品ラインアップで、端末の進化（高機能化・小型化）に貢献

【市場トレンド】 自動車の電動化・電装化



社会価値

高機能・高信頼・高品質な
製品の安定供給による



脱炭素社会の実現に
向けたxEVの普及拡大

運転支援などの
自動車の安全性向上

コンポーネント

コンデンサ



インダクタ



EMIフィルタ

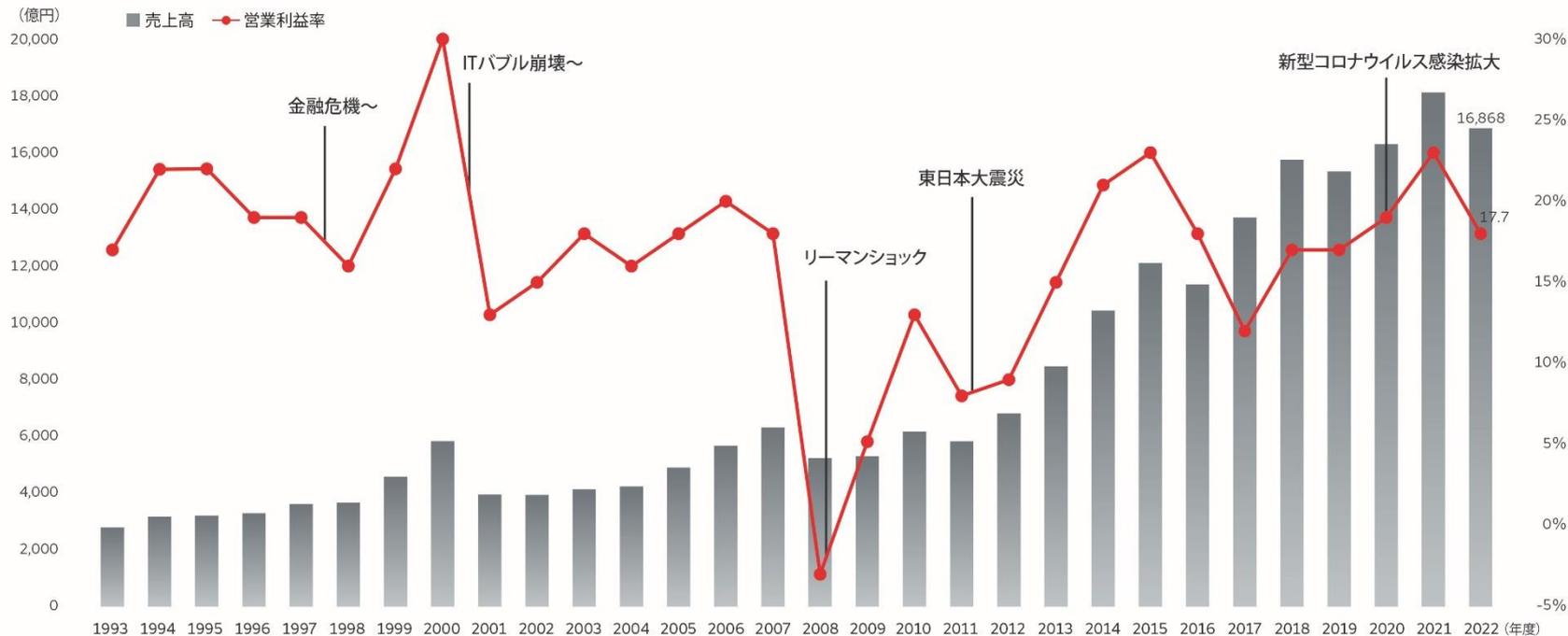


デバイス・モジュール

-  Wi-Fi®モジュール
-  セラミック発振子
-  タイミングデバイス
-  サーミスタ
-  V2Xモジュール
-  防滴型超音波センサ
-  MEMS慣性カセンサ

自動車の電動化・電装化に対応した高機能・高信頼・高品質な製品の提供によって、運転支援などの自動車の安全性向上に貢献

エレクトロニクス領域の拡大とともに成長



02

ムラタの価値創造ストーリー

- 持続的な企業価値の向上を図るため、長期視点で目指す方向性を示した「Vision2030」を策定
- 中期方針2024は、2030年とそれ以降の持続的な成長を構築するうえで極めて重要な3年間
- 長期視点で捉えた環境変化からバックキャストして備えを着実に進める

中期方針2024

事業機会



通信



モビリティ



環境



ウェルネス

中期経営課題

- 経営変革の推進
- ポートフォリオ経営の高度化
- 筋肉質な経営基盤の形成
- 2030年への備え

経営目標

経済価値

社会価値
環境・多様性・ES

Vision2030実現のための第1フェーズ

Vision 2030

成長戦略

基盤事業の深化と
ビジネスモデルの進化

- 1 標準品型ビジネス
- 2 用途特化型ビジネス
- 3 新たなビジネスモデル創出

4つの経営変革の実行

- 社会価値と経済価値の好循環を生み出す経営
- 自律分散型の組織運営の実践
- 仮説思考にもとづく変化対応型経営
- デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

Innovator in Electronics

ムラタのイノベーションで社会価値と経済価値の好循環を生み出し、豊かな社会の実現に貢献していきます



Global No.1部品メーカー

～ムラタがお客様や社会にとって最善の選択となる～

経済価値 (2024年度目標)

売上高

2兆円

営業利益率

20%以上

ROIC (税引前)

20%以上

※ROIC (税引前) = 営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本 (固定資産 + 棚卸資産 + 売上債権 - 仕入債務)

社会価値①「環境」

温室効果ガス排出量
2019年度比、対象:Scope1+Scope2

2024年度 : 20%減
2030年度 : 46%減

再生可能エネルギー導入比率

2024年度 : 25%
2030年度 : 50%
2050年度 : 100%

持続可能な資源利用率※1

2024年度 : 1% ※3
2030年度 : 25%
2050年度 : 100%

循環資源化率※2

2024年度 : 5% ※3
2030年度 : 50%
2050年度 : 100%

社会価値②「多様性」

海外間接部門従業員の他拠点での勤務経験比率※4

2024年度 : 7%
2030年度 : 10%

社会価値③「ES※5」

従業員エンゲージメント肯定回答比率

2024年度 : 70%以上
2030年度 : 76%以上

※1 持続可能な資源利用率: リサイクルスキームを構築するなどにより、将来にわたって持続的に利用できる「枯渇リスクの低い資源」が使用されている割合 (枯渇する可能性のある資源: AgやNiなど)
※2 循環資源化率: ムラタのOutput (排出物) が循環資源としてリサイクルに回されている割合
※3 2024年度の目標値は現状からの改善幅。
※4 日本から海外への出向者を除いた、海外ローカリス タッフを対象
※5 仕事を通じて従業員一人ひとりがやりがいを感じ成長し続けること

3層ポートフォリオ

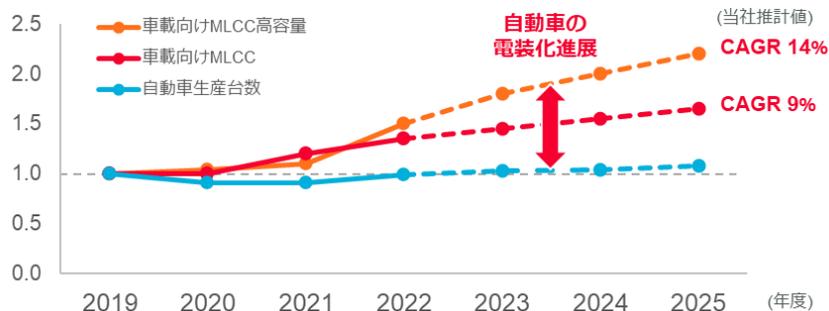
Innovator in Electronics

	売上区分	位置づけ	重点課題
 3層目 新しいビジネスモデル 創出	<u>その他</u> <ul style="list-style-type: none">➢ ソリューションビジネス➢ ヘルスケア機器➢ 機器製作等	長期的な発展に向けた 新たなビジネスモデルの創出	<ul style="list-style-type: none">◆ 強みを発揮できる領域の探索◆ アイデア創出の仕掛けづくりの実行
2層目 用途特化型ビジネス (ASC)	<u>デバイス・モジュール</u> <ul style="list-style-type: none">➢ 高周波・通信➢ エナジー・パワー➢ 機能デバイス	事業領域の拡大と 新たな付加価値の創造	<ul style="list-style-type: none">◆ 差異化技術の強化◆ 収益性改善と健全なポートフォリオの確立
1層目 標準品型ビジネス (EI)	<u>コンポーネント</u> <ul style="list-style-type: none">➢ コンデンサ➢ インダクタ・EMIフィルタ	基盤事業として ムラタの成長を牽引	<ul style="list-style-type: none">◆ 生産能力増強◆ カuttingエッジの技術強化◆ 事業効率の向上

重点課題への取り組み 1層目

車載向けMLCCの市場予測 (数量ベース)

■ 自動車の電装化進展のトレンドは不変 特に高容量品の伸びが大きい



通信・モビリティ市場の拡大を見据えた「供給力」の強化

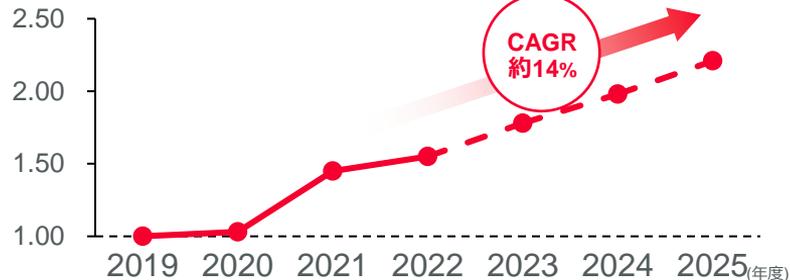


MLCCの材料の安定供給体制構築のため、石原産業株式会社・富士チタン工業株式会社と合併会社を設立

タイで新棟建設

車載向けインダクタ・EMIフィルタの市場予測 (数量ベース)

■ 自動車の電装化や5G関連などが牽引



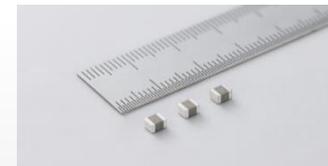
車載市場でのポジション向上に向けた取り組み

自動車の電装化の進展によりDC-DCコンバータの搭載数は増加しており、より小型で電気特性に優れたパワーインダクタのニーズ増加

➡ 供給力の強化と新製品の開発を加速



ベトナムで新棟建設



メタルパワーインダクタの強化

重点課題への取り組み 2層目

無線通信技術の進化に向けた準備

M&Aを活用し、競合企業との差異化技術を強化



XBAR技術

市場

5Gや次世代のWi-Fi規格が普及

ニーズ

高周波帯において信号を正確に受信することができる帯域幅の広い高性能な高周波フィルタ

製品特徴

高周波の領域で、優れたフィルタリング特性を発揮

- 表面波フィルタの製造工程と高い親和性を有する
- 差異化技術を獲得し、競争優位性を確立

機能デバイス製品の強化

自動運転市場向けセンサのラインアップ拡充と生産能力強化

MEMS慣性力センサ

市場

先進運転支援システム(ADAS)の高精度化

ニーズ

衛星システムで(GNSS)だけでは測位できないトンネル内や橋梁下での正確な車両位置を検知するセンサ技術

製品特徴

トンネル内や橋梁下で誤差数十センチレベルの測位が可能

- MEMS慣性力センサは自動車向けで好調。安定供給体制構築のため、フィンランドに加えて国内拠点でも生産能力増強を実行



センサ事業の車載向け売上の変化



KUMIHIMO Tech Camp with Murata



- イノベーションの機会をプロアクティブに作り出す仕掛け
- 異業種との知のコラボレーションの推進することで、革新的なサービスやソリューションを生み出し、新市場・新アプリケーションの開拓と創出を目指す



ハードウェアや知的財産の提供
試作品製作サポート
ビジネス化サポート



応募企業様
ビジネスアイデア



サービス・
ソリューション

金津村田製作所クリーンエネパーク



- ◀ 内製セルを使った蓄電システム
- ◀ 制御ソフト Efinnos (エフィノス)

ソーラーパネル+蓄電池+制御ソフトを組み合わせたシステムを導入



社内実証を重ね、事業化に取り組み、経済価値の創出を目指す

ピエクレックス

PIECLEX
UTILIZE YOUR ENERGY

- ムラタの“でんき”、帝人フロンティアの“せんい”、それぞれが得意とする技術分野を融合して開発。繊維が動くことで微弱な電気を発生させ、抗菌効果を発揮
- 原料である植物由来の「ポリ乳酸」の生分解性を活かし、衣料品の堆肥化が可能

- 気候変動対策の取り組みを強化したことにより、**2024年度目標値を2023年度に1年前倒しで達成する見込み**
- 取り組みを加速させるために、中長期目標の前倒しも検討

GHG排出量削減率と再エネ導入比率の実績と目標

		2021年度	2022年度	2024年度(目標)	2030年度(目標)	長期目標
温室効果ガス 排出量削減率 (2019年度比)	Scope1 + Scope2	12.7%	16.4%	20%	46%	カーボン ニュートラル
	Scope3	2.6%	5.9%	-	27.5%	-
再生可能エネルギー導入比率		21.3%	23.7%	25%	50%	100% (2050年)

ムラタの取り組み概要

Scope1・2

再エネの推進

- オンサイト
- オフサイトPPA
- 再エネ電力調達

省エネの推進

- 省エネシステム導入
- 製造現場での取り組み
- 省エネ設備の製作

新たな脱炭素の取り組み

- 水素の利活用

など

Scope3

- 仕入先様との連携
- 物流における環境負荷低減
- Scope3算出の精緻化

など

気候変動対策 再エネの推進

- 太陽光パネルに加え、工場設置としては規模の大きい蓄電池を導入
- 発電するだけでなく、蓄電池と制御技術を使って再エネ導入効果を最大化する点が特徴

再生可能エネルギー導入比率100%拠点

金津村田製作所

- 「太陽光×蓄電池×制御」を導入
- 再エネ(水力)由来電力に切替え



フィリピン

- 「メガソーラー」を導入
- 再エネ(地熱)由来電力に切替え



伊勢村田製作所

- 「太陽光×蓄電池×制御」を導入
- 再エネ(水力)由来電力に切り替え



みなとみらいイノベーションセンター

- 「太陽光」を導入
- 地域性のある再エネ(太陽光・風力)由来電力に切替え



仙台村田製作所

- 「太陽光×蓄電池×制御」を導入
- 再エネ(水力)由来電力に切替え



中国 無錫村田電子(第二工場)/村田新能源(無錫)

- 「太陽光」を導入
- 再エネ(風力・太陽光)由来電力に切り替え



創業者の言葉

そこにムラタがあることが、その地域の喜びであり、誇りである企業。
ムラタで働くことが、従業員の喜びであり、誇りである企業。

2030年度目標

地域の皆様とのコミュニケーションを大切にし地域課題の解決につながる貢献活動を推進すること。

事例

出前授業 (体験型プログラミング教育)



子ども向け科学体験施設 「Mulabo!」



ムラタの森 (森林保全・緑化活動)



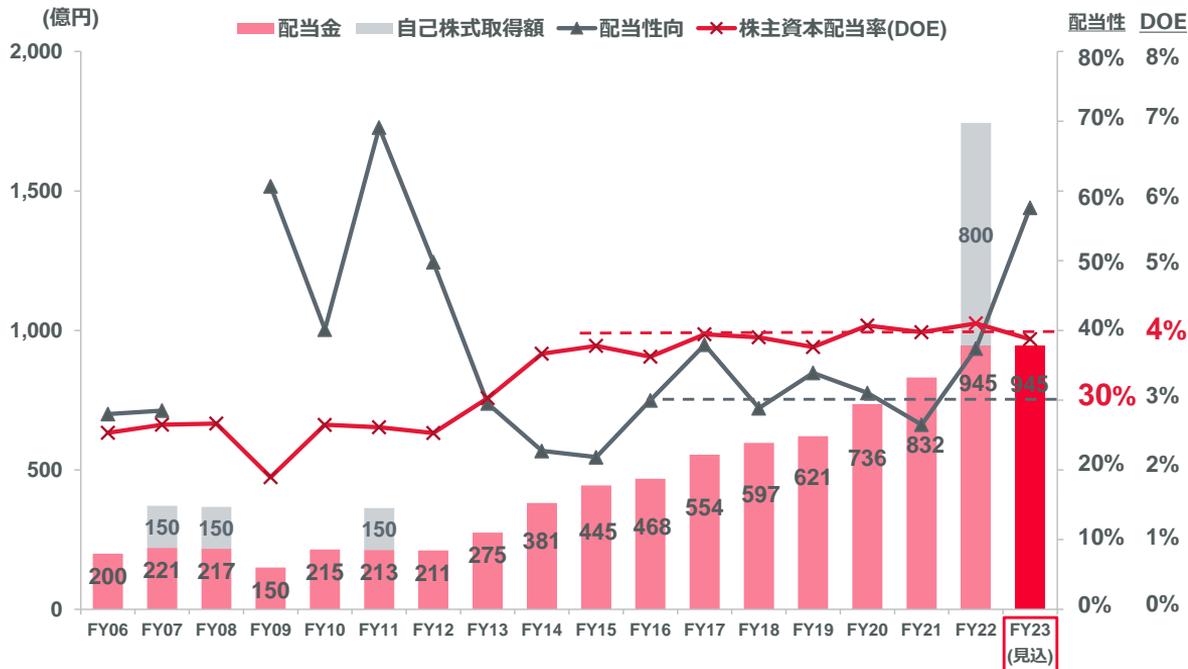
03



株主還元

株主還元の方針

- 配当 配当の安定的な増加を基本方針としており、
中期的に配当性向30%程度を目安にDOE*4%以上を実現
- 自己株式取得 株主還元の手段として、資本効率の改善を目的に適時実施



※DOE (株主資本配当率) : 配当支払総額 ÷ 株主資本 × 100

2023年度 配当(予想)

配当金(年間)

100円

※2023年10月1日付で株式1株を3株に分割したため期末配当は25円(中間配当: 75円)

配当性向

42.0%

中期方針2024 計画

(単位:億円)



	2022年度実績	2023年度予想
環境投資	40億円程度※	300億円程度※ (但し、M&A等成長投資は予想値に 含まない)
M&A等成長投資	40億円程度	
その他 (ITインフラ強化等)	160億円程度	
戦略投資計	236億円	

※環境投資は、2022年度実績並びに2023年度業績予想の設備投資額に含まれております

当社の株主還元の基本方針は以下の通り

- 配当 :
1株当たり利益を増加させることにより
配当の安定的な増加を基本方針としており、
中期的に配当性向30%程度を目安にDOE4%以上を実現
- 自己株式取得 :
株主還元の手段として、
資本効率の改善を目的に適時実施

追加還元において検討する要
素

手元流動性比率
(売上月齢2.5~3.5ヶ月を目安に運営)と
当面の資金需要

成長投資や戦略投資の
追加投資機会の有無

将来キャッシュフロー見込み、
現在の株価水準

当社Webサイトをぜひご覧ください。 [IRページはこちら](#)

当社の決算やESGに関する取り組みなど様々な情報を掲載しています。

決算説明会

決算説明会動画を配信中。 [資料・動画はこちら](#)

2024年3月期 第3四半期 決算説明会動画（説明・Q&A）



会社説明会・ESG説明会

会社説明会・ESG説明会動画を配信中。 [資料・動画はこちら](#)

ESG説明会 2024 動画（説明・パネルディスカッション）

<第1部 当社のESGに関する取り組みの進捗>

<第2部 当社社外取締役によるパネルディスカッション>





04



ご参考

令和6年能登半島地震で被災した拠点の状況（3月1日 時点）

- 被害の大きい「ワクラ村田製作所」「穴水村田製作所」を除き、従業員の安全を確保したうえで、生産を再開済み
- 復旧見込みは状況の変化があり次第、[当社ウェブサイト](#)にて情報発信を予定

拠点の名称	3月1日現在の状況
株式会社富山村田製作所	1月9日から生産を再開
株式会社福井村田製作所	1月6日から生産を再開
株式会社鯖江村田製作所	1月6日から生産を再開
株式会社金沢村田製作所	1月9日から生産を再開
株式会社金津村田製作所	1月9日から生産を再開
株式会社アスワ村田製作所	1月9日から生産を再開
株式会社小松村田製作所	1月9日から生産を再開
株式会社氷見村田製作所	2月5日から生産を再開
株式会社ハクイ村田製作所	1月11日から生産を再開
株式会社ワクラ村田製作所	3月上旬から順次生産再開予定
株式会社穴水村田製作所	生産再開は5月中旬以降を予定

	2022年度 第3四半期		2023年度 第2四半期		2023年度 第3四半期		前年同期比 23Q3/22Q3		直前四半期比 23Q3/23Q2		為替影響 (億円)	為替影響除き	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上収益	4,190	100.0	4,427	100.0	4,394	100.0	+204	+4.9	▲33	▲0.7	+80	▲113	▲2.6
営業利益	784	18.7	888	20.1	762	17.3	▲22	▲2.9	▲126	▲14.2	+40	▲166	▲21.8
税引前利益	657	15.7	985	22.2	642	14.6	▲15	▲2.2	▲342	▲34.8			
親会社の所有者に 帰属する当期利益	510	12.2	751	17.0	494	11.2	▲17	▲3.3	▲257	▲34.2			
為替 (円/USD)	141.64		144.63		147.89		※対ドル為替感応度(1円変動/年) 売上収益：約100億円 営業利益：約50億円						

2023年度第3四半期（直前四半期比）

- 売上収益は、高周波モジュールがスマートフォン向けで増加したほか、コンデンサがスマートフォンやモビリティ向けで増加した。一方、樹脂多層基板やコネクティビティモジュールがスマートフォン向けで減少したほか、リチウムイオン二次電池がゲーム機向けで減少した。
- 営業利益は、合理化・コストダウンや円安効果などの増益要因はあったが、生産高の減少や製品価格の値下がりにより減益となった。
- なお、当第3四半期において、能登半島地震関連の損益影響は計上していない。

事業別セグメント売上収益

	2022年度 第3四半期		2023年度 第2四半期		2023年度 第3四半期		前年同期比 23Q3/22Q3		直前四半期比 23Q3/23Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,827	43.6	1,970	44.5	1,981	45.1	+153	+8.4	+10	+0.5
インダクタ・ EMIフィルタ	434	10.3	484	10.9	482	11.0	+48	+11.0	▲2	▲0.5
高周波・通信	1,144	27.3	1,277	28.9	1,309	29.8	+165	+14.5	+32	+2.5
エナジー・パワー	539	12.9	431	9.7	366	8.3	▲173	▲32.2	▲65	▲15.2
機能デバイス	221	5.3	235	5.3	228	5.2	+7	+3.0	▲8	▲3.2
その他	25	0.6	29	0.6	29	0.6	+4	+18.1	+0	+0.7
売上収益計	4,190	100.0	4,427	100.0	4,394	100.0	+204	+4.9	▲33	▲0.7

用途別売上収益

	2022年度 第3四半期		2023年度 第2四半期		2023年度 第3四半期		前年同期比 23Q3/22Q3		直前四半期比 23Q3/23Q2	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
通信	1,626	38.8	1,941	43.9	1,991	45.3	+365	+22.5	+50	+2.6
モビリティ	1,063	25.4	1,107	25.0	1,130	25.7	+67	+6.3	+22	+2.0
コンピュータ	507	12.1	507	11.4	522	11.9	+15	+2.9	+15	+3.0
家電	456	10.9	403	9.1	327	7.4	▲129	▲28.2	▲75	▲18.8
産業・その他	538	12.8	468	10.6	424	9.7	▲114	▲21.2	▲45	▲9.5
売上収益計	4,190	100.0	4,427	100.0	4,394	100.0	+204	+4.9	▲33	▲0.7

2023年度 業績予想

	2022年度 実績		2023年度				増減		為替影響	為替影響除き	
	(億円)	(%)	上期実績 (億円)	下期予想 (億円)	通期予想(10月) (億円) (%)		(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(%)
売上収益	16,868	100.0	8,104	8,097	16,200	100.0	▲668	▲4.0	+750	▲1,418	▲8.4
営業利益	2,982	17.7	1,389	1,311	2,700	16.7	▲282	▲9.5	+380	▲662	▲22.2
税引前利益	3,027	17.9	1,612	1,368	2,980	18.4	▲47	▲1.5			
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,439	14.5	1,252	998	2,250	13.9	▲189	▲7.8			
ROIC(税引前) (%)	14.4				12.3		▲2.1pt				
為替 (円/USD)	135.48				143.00		※対ドル為替感応度(1円変動/年) 売上収益：約100億円 営業利益：約50億円				

- 売上・利益ともに、2023年度業績予想は据え置き。
- なお、業績予想の検証にあたっては能登半島地震の影響を考慮している。

モビリティの未来

In Car領域

■xEVに加えて、自動運転技術が進化



データ量の増加・制御の複雑化によりECUの重要性増す

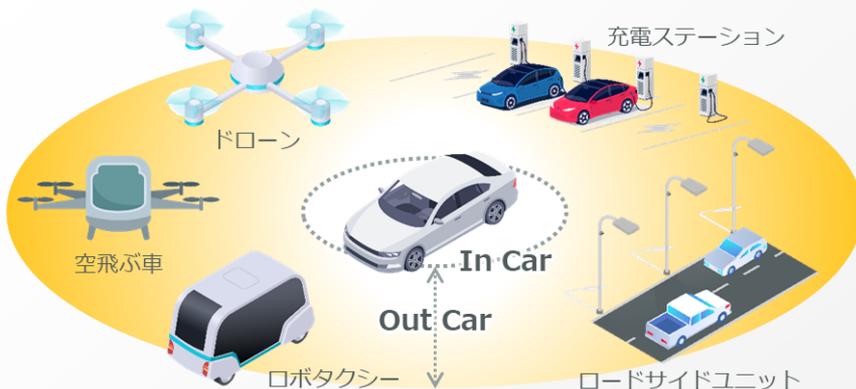
電子部品の需要増加

【例】車載向けMLCCの使用数量

(pcs)	ICE	Mild HV	Strong HV	PHEV	BEV
Powertrain	300-500	1,000-1,200	1,200-1,600	1,500-2,000	2,000-2,500
ADAS (Lv3/4/5)			3,000-5,000		
Safety			300-1,000		
Infotainment			500-2,500		
Other (Non-Safety)			500-2,500		

Out Car領域

■CASEの分野での技術革新によりモビリティビジネス拡大



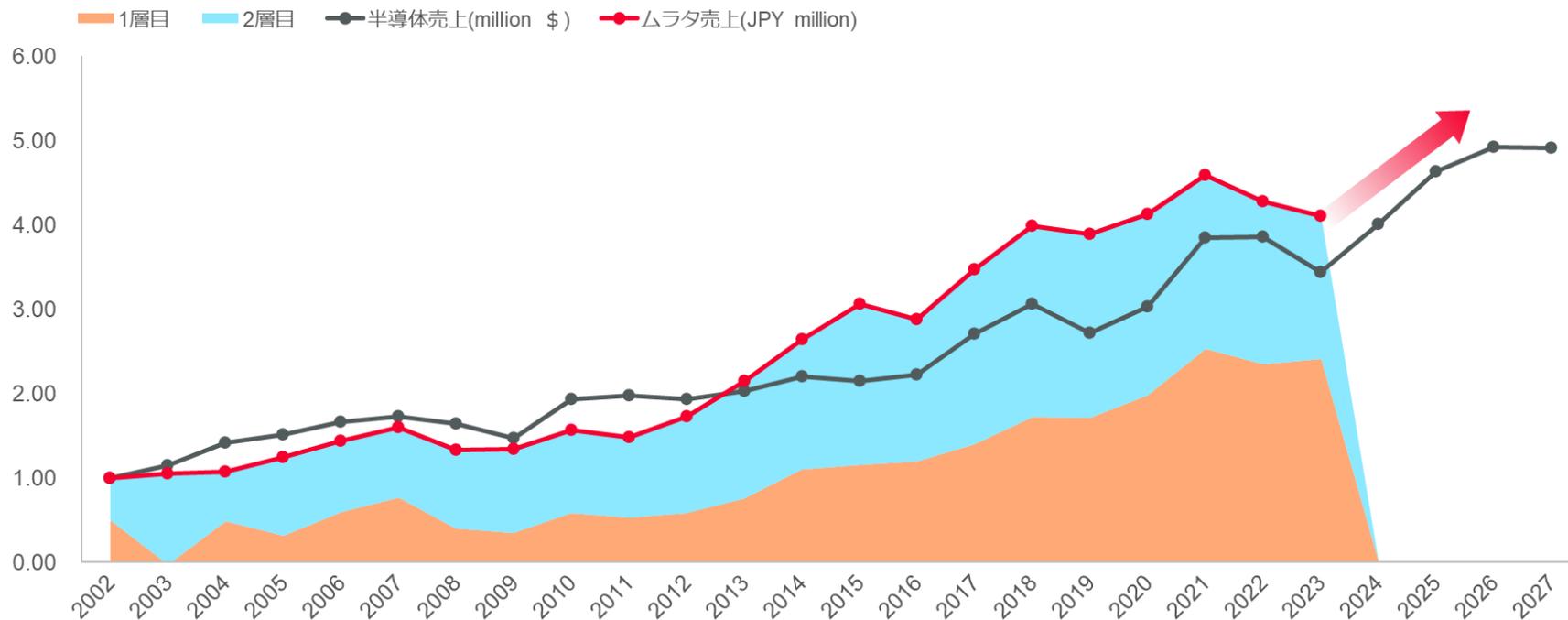
- 通信技術を通じて乗り物が社会とつながることで、MaaSのように乗り物を起点としたサービスが拡大
- 新たな移動手段として、ロボタクシーや超小型モビリティ、空飛ぶ車(eVTOL)も登場

ムラタの取り組み

- 通信領域の知見を活かし、ソフト・ソリューション提供も含めた新しい価値の提供
- Out Car領域での事業機会探索

半導体市場と当社業績の関係

- 1層目+2層目で半導体市場を上回る成長を実現
- エレクトロニクス領域の拡大に伴い、1層目+2層目+3層目で事業成長を目指す



ガートナーの資料を基に弊社にて推計し作成

◆ ESGインデックスへの組み入れ

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

THE INCLUSION OF Murata Manufacturing Co., Ltd. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Murata Manufacturing Co., Ltd. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good



STOXX
Indices by Qontigo



Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index

TOP CONSTITUENT 2023

Member 2023/2024
Platinum Career
Index

2023 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF Murata Manufacturing Co., Ltd. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Murata Manufacturing Co., Ltd. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

◆ サステナビリティに関する社外からの評価



◆ その他、主な社外表彰



Top 100
Global
Innovator
2023

Clarivate™

社外からの評価に関する詳細は [こちら](#) をご覧ください。

[「Murata value report 2023」](#)（統合報告書）では、
村田製作所の財務・非財務情報を統合的にご確認いただけます。

Murata value report 2023



「Murata value report 2023」 目次

- ・ ムラタの価値観とビジョン
- ・ ムラタの今
- ・ ムラタの価値創造ストーリー
- ・ 実行戦略と取り組みの進捗
- ・ 持続的な成長を実現するための基盤
- ・ データセクション